

特定行為区分	創傷管理関連	時間	72
特定行為名	(A) 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去 (B) 創傷に対する陰圧閉鎖療法		
学ぶべき事項	(共通) 創傷管理関連の基礎知識	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 皮膚、皮下組織（骨を含む）に関する局所解剖</li> <li>2. 主要な基礎疾患の管理</li> <li>3. 全身・局所のフィジカルアセスメント</li> <li>4. 慢性創傷の種類と病態</li> <li>5. 褥瘡の分類、アセスメント・評価</li> <li>6. 治癒のアセスメントとモニタリング（創傷治癒過程、TIME理論等）</li> <li>7. リスクアセスメント</li> <li>8. 褥瘡及び創傷治癒と栄養管理</li> <li>9. 褥瘡及び創傷治癒と体圧分散</li> <li>10. 褥瘡及び創傷治癒と排泄管理</li> <li>11. DESIGN-Rに基づいた治療指針</li> <li>12. 褥瘡及び創傷の診療のアルゴリズム</li> <li>13. 感染のアセスメント</li> <li>14. 褥瘡の治癒のステージ別局所療法</li> <li>15. 下肢創傷のアセスメント</li> <li>16. 下肢創傷の病態別治療</li> <li>17. 創部哆開創のアセスメントと治療</li> </ol>	
	(A) 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の目的</li> <li>2. 褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の適応と禁忌</li> <li>3. 褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴うリスク(有害事象とその対策等)</li> <li>4. DESIGN-Rに準拠した壊死組織の除去の判断</li> <li>5. 全身状態の評価と除去の適性判断（タンパク量、感染リスク等）</li> <li>6. 壊死組織と健全組織の境界判断</li> <li>7. 褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の方法</li> <li>8. 褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴う出血の止血方法</li> </ol>	
	(B) 創傷に対する陰圧閉鎖療法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 創傷に対する陰圧閉鎖療法の種類と目的</li> <li>2. 創傷に対する陰圧閉鎖療法の適応と禁忌</li> <li>3. 創傷に対する陰圧閉鎖療法に伴うリスク（有害事象とその対策等）</li> <li>4. 物理的療法の原理</li> <li>5. 創傷に対する陰圧閉鎖療法の方法</li> <li>6. 創傷に対する陰圧閉鎖療法に伴う出血の止血方法</li> </ol>	
研修概要	(共通) 創傷管理関連の基礎知識	創傷管理の必要性を理解し、安全に創傷管理を実践できる看護師を養成する。	
	(A) 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	<p>医師の指示の下、手順書により身体所見（血流のない壊死組織の範囲、肉芽の形成状態、膿や滲出液の有無、褥瘡部周囲の皮膚の発赤の程度、感染徴候の有無等）検査結果及び使用中の薬剤等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、鎮痛が担保された状況において、血流のない遊離した壊死組織を滅菌ハサミ（剪刃）、滅菌撮子等で取り除き、創洗浄、注射針を用いた穿刺による排膿等を行う。出血があった場合は、圧迫止血や双極性凝固器による止血処置を行う。</p>	
到達目標	(B) 創傷に対する陰圧閉鎖療法	<p>医師の指示の下、手順書により身体所見（創部の深さ、創部の分泌物、壊死組織の有無、発赤、腫脹、疼痛等）、血液検査結果及び使用中の薬剤等が医師から指示された病状の範囲内にあることを確認し、創面全体を被覆材で密封し、ドレナージ管を接続し、吸引装置の陰圧を設定、モード（連続、間欠吸引）選択を行う。</p>	
	1. 医師の指示の下、手順書により、医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去ができるようになる。		
	2. 医師の指示の下、手順書により、医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、創傷に対する陰圧閉鎖療法ができるようになる。		
	3. 手順書案を作成し、再評価、修正できる能力を養う。		
	4. 医師、歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否を判断するために必要な知識を養う。		
5. 実施、報告の一連の流れが適切に行える。			
評価方法	講義：eラーニングの受講及び講義確認テスト		
	OSCE：評価表（DOPS）を用いた観察評価		
	実習：各種実習の観察評価		
	試験：eラーニング上もしくは集合で修了試験を実施		
研修内訳	講義（46時間）	視聴時間45分＋講義確認テスト15分	
	OSCE（2時間）	OSCEは、指定研修機関で行う	
	実習（21時間）	実習は、指導者の指導の下、指定研修機関で行う	
	試験（3時間）	修了試験60分	

	学ぶべき事項	講師	所属	研修方法	通番
(共通) 創傷管理 関連の基礎知識	皮膚、皮下組織（骨を含む）に関する局所解剖	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	1
	主要な基礎疾患の管理	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	2
	全身・局所のフィジカルアセスメント	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	3
	慢性創傷の種類と病態	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	4
	褥瘡の分類、アセスメント・評価	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	5
	治癒のアセスメントとモニタリング（創傷治癒過程、TIME理論等） （1）	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	6
	治癒のアセスメントとモニタリング（創傷治癒過程、TIME理論等） （2）	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	7
	リスクアセスメント	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	8
	褥瘡及び創傷治癒と栄養管理	田村 佳奈美	福島学院大学 食物栄養学科講師	講義	9
	褥瘡及び創傷治癒と体圧分散	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	10
	褥瘡及び創傷治癒と排泄管理	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	11
	DESIGN-Rに基づいた治療指針（1）	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	12
	DESIGN-Rに基づいた治療指針（2）	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	13
	褥瘡及び創傷の診療のアルゴリズム（1）	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	14
	褥瘡及び創傷の診療のアルゴリズム（2）	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	15
	感染のアセスメント	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	16
	褥瘡の治癒のステージ別局所療法（1）	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	17
	褥瘡の治癒のステージ別局所療法（2）	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	18
	下肢創傷のアセスメントと病態別治療（1）	寺師 浩人	神戸大学医学部形成外科学教室 教授	講義	19
	下肢創傷のアセスメントと病態別治療（2）	寺師 浩人	神戸大学医学部形成外科学教室 教授	講義	20
	下肢創傷のアセスメントと病態別治療（3）	寺師 浩人	神戸大学医学部形成外科学教室 教授	講義	21
	下肢創傷のアセスメントと病態別治療（4）	寺師 浩人	神戸大学医学部形成外科学教室 教授	講義	22
	創部哆開創のアセスメントと治療（1）	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	23
	創部哆開創のアセスメントと治療（2）	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	24
	病態のアセスメント（1）	指導者	指定研修機関	実習	25
	病態のアセスメント（2）	指導者	指定研修機関	実習	26
	創傷管理関連の基礎知識 修了試験			試験	27

(A) 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の目的 (1)	榊原 俊介	兵庫県立がんセンター 形成外科	講義	28
	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の目的 (2)	榊原 俊介	兵庫県立がんセンター 形成外科	講義	29
	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の適応と禁忌 (1)	木下 幹雄	TOWN訪問診療所 院長	講義	30
	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の適応と禁忌 (2)	木下 幹雄	TOWN訪問診療所 院長	講義	31
	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴うリスク (有害事象とその対策等) (1)	寺部 雄太	東京西徳洲会病院 形成外科	講義	32
	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴うリスク (有害事象とその対策等) (2)	寺部 雄太	東京西徳洲会病院 形成外科	講義	33
	DESIGN-Rに準拠した壊死組織の除去の判断 (1)	丹波 光子	杏林大学医学部付属病院 皮膚・排泄ケア認定看護師/特定行為修了看護師	講義	34
	DESIGN-Rに準拠した壊死組織の除去の判断 (2)	丹波 光子	杏林大学医学部付属病院 皮膚・排泄ケア認定看護師/特定行為修了看護師	講義	35
	全身状態の評価と除去の適性判断 (タンパク量、感染リスク等) (1)	寺部 雄太	東京西徳洲会病院 形成外科	講義	36
	全身状態の評価と除去の適性判断 (タンパク量、感染リスク等) (2)	寺部 雄太	東京西徳洲会病院 形成外科	講義	37
	壊死組織と健全組織の境界判断 (1)	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	38
	壊死組織と健全組織の境界判断 (2)	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	39
	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の方法 (1)	木下 幹雄	TOWN訪問診療所 院長	講義	40
	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の方法 (2)	木下 幹雄	TOWN訪問診療所 院長	講義	41
	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴う出血の止血方法 (1)	榊原 俊介	兵庫県立がんセンター 形成外科	講義	42
	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴う出血の止血方法 (2)	榊原 俊介	兵庫県立がんセンター 形成外科	講義	43
	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の手技	指導者	指定研修機関	実習	44
		指導者	指定研修機関	実習	45
	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	OSCE	46
	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去 見学又は手伝い	指導者	指定研修機関	実習	47
		指導者	指定研修機関	実習	48
		指導者	指定研修機関	実習	49
		指導者	指定研修機関	実習	50
		指導者	指定研修機関	実習	51
		指導者	指定研修機関	実習	52
		指導者	指定研修機関	実習	53
		指導者	指定研修機関	実習	54
褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去 指導者の指導監督下で実施	指導者	指定研修機関	実習	55	
	指導者	指定研修機関	実習	56	
	指導者	指定研修機関	実習	57	
褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去 修了試験			試験	57	

(B) 創傷に対する陰圧閉鎖療法	創傷に対する陰圧閉鎖療法の種類と目的	大浦 紀彦	杏林大学医学部 形成外科 教授	講義	58
	創傷に対する陰圧閉鎖療法の適応と禁忌、創傷に対する陰圧閉鎖療法に伴うリスク（有害事象とその対策等）	大浦 紀彦	杏林大学医学部 形成外科 教授	講義	59
	物理的療法の原理（1）	小川 令	日本医科大学付属病院 形成外科・美容外科 主任教授	講義	60
	物理的療法の原理（2）	小川 令	日本医科大学付属病院 形成外科・美容外科 主任教授	講義	61
	創傷に対する陰圧閉鎖療法の方法	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	62
	創傷に対する陰圧閉鎖療法に伴う出血の止血方法	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	講義	63
	創傷に対する陰圧閉鎖療法の手技	指導者	指定研修機関	実習	64
		指導者	指定研修機関	実習	65
	創傷に対する陰圧閉鎖療法	切手 俊弘	彦根市立病院 在宅診療科	OSCE	66
	創傷に対する陰圧閉鎖療法 見学又は手伝い	指導者	指定研修機関	実習	67
	創傷に対する陰圧閉鎖療法 指導者の指導監督下で実施	指導者	指定研修機関	実習	68
		指導者	指定研修機関	実習	69
		指導者	指定研修機関	実習	70
		指導者	指定研修機関	実習	71
創傷に対する陰圧閉鎖療法 修了試験			試験	72	